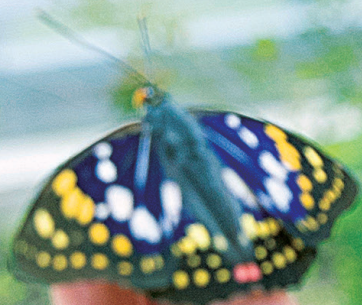


# ぐりぐりぐりぐり

お！  
あなたの知らない栗山、  
見つけた。



『オオムラサキ館』の飼育舎での一コマ。色味や大きさの微妙な違いで“誰か”を判別しているのだとか。



町の顔、華やかなカントリーサイン

## そもそも、栗山町とオオムラサキの関係って？

栗山町のカントリーサインを見て不思議に思ったことはありませんか？ そうです、栗じゃないんです。なぜオオムラサキが選ばれたのか、いつから町のシンボルになったのか、『オオムラサキ館』飼育員の田中成明さんにお聞きした話を元に、ご説明いたします。

まずはオオムラサキの生息地について。世界的にみるとアジアに分布しており、日本では全国で生息が確認されています。ですから、栗山だけで見られるというわけでは

ありません。ありませぬ。「なーんだ」と思わないでください。ね、だってオオムラサキは国蝶ですから。国蝶という神秘的なイメージを抱く方も多いですが、国花の桜がそうであるように日本全国で見られる身近さも大切なポイントなのです。といっても、オオムラサキは優れた自然を選びます。幼虫はエゾエノキの葉を食べ、羽化してからはハルニレやミズナラの樹液を吸う。このように選り好みする蝶ですから、さまざまな樹木が入り混じり、生き物がたくさん生息している雑木林がないといけません。つまり、オオムラサキは「豊かな自然環境の象徴」でもあるのです。

90年代に栗山町はこの蝶をシンボルに選びました。里山を守り続けるという決意を示したのかもしれない。

マンホールにも！見つけたことありますか？



### オオムラサキってどんな性格？

「町民にとっても謎多きオオムラサキ。さてここからは飼育員の田中さんにドシロシ聞いていきましょう。田中さん、オオムラサキは栗山町のどの辺りに生息していますか？」

「自然の中で見るなら里山ですね。たくさんいますよ。ハルニレやミズナラの木を探して、幹の高い所に留まっているか見てみてください。オオムラサキは上空を飛ぶんです。木のてっぺん辺りを浮遊し、お目当ての木がないか、ライバルがないか、ぐるぐるぐるぐる。目撃情報が少ないのは飛んでいる高さにあるのでしょう。あ、『オオムラサキ館』なら自然環境のまま、必ず見ることが出来ますよ(笑)。」

「高貴な美しさが目を引きますが、性格もまた優雅でおっとりしているのでしょうか？」

「それが気性荒いんですよ。幼虫の頃から喧嘩しますし、成虫になっても蜂を追い回したりしてテリトリーを守ろうと必死です。毒はないですが凄みで勝負。目が悪いから強敵に挑めるのでは、という説もあります。見るとわかるように体つきもがっしり、マッチョでしょう。瞬間時速20kmを記録したことがあるというんですから、相当なものです。耳の近くを横切ると鳥のような羽音がするらしいですよ。」

「飼育員になって4年目のことですが、まだ解明できないこと、不思議に思うことはありますか？」

「幼虫は12月から約5カ月ほど、雪の下の落ち葉の裏で長い越冬をします。その後、5月すぎになると葉の裏などサナギになる場所を探しますが、たまに「なぜそこにした？」という場所です。サナギになっている子を見るんです。鉄製のパイプとかね。謎ですよ。こんなに木や緑があるのに、何を思ってそこを選んだのか。基準が不明なんですよね。」



見て！幼虫の顔カワイイでしょう！



### 田中さんがナゾに思っていること

「飼育員になって4年目のことですが、まだ解明できないこと、不思議に思うことはありますか？」

「して取り上げられる鮮やかなオオムラサキはオスですよ。メスはどんな姿なのでしょう。」

「一気に入っちゃったんでしょうか。直接聞いてみたいところですよね…。ところでシンボルと」

### オオムラサキって、こんな蝶

食事は花の蜜ではなく樹液。カブトムシや蜂を追い払い吸汁する。



神々しく存在感を放つ青紫色の羽(オス)。裏側は白〜黄色。

オスは約10cm、メスは約12cm。他の蝶に比べて体がゴツい。



### オオムラサキ飼育員 田中成明

地域おこし協力隊として活動をした後、2015年からオオムラサキ飼育員に。昆虫に関しては一切知識がなかったものの、ここ4年で立派なオオムラサキマニアに。親心なのか「おー、大きくなったねえ」と幼虫に話しかけることもある。

メスはオスのような濃い紫色ではなく茶色で、黄色い模様が入っています。色目はオスより地味ですが一回り大きくて迫力があります。勇ましいですよ。オスもメスも成虫になってから約1カ月の短い命。夏のほんの少しの間しかその美しい姿を見せないんですから、儚いものですよ。

### 『オオムラサキ館』に潜入！



日本各地で確認された昆虫の標本を展示。オオムラサキは地域によって微妙に色が違うんです！



網で囲まれた飼育舎。雨も風も自然のまま。オオムラサキ以外にもたくさんの蝶を観察できます。

夕張川に住む魚の紹介コーナー、野鳥観察コーナーも！蝶の羽化を見るなら7月がオススメ。冬はサケの稚魚の観察、バードウォッチングが楽しめます。



ふるさといきもの里 **オオムラサキ館**  
〒069-1501 栗山町桜丘2丁目38-5  
TEL 0123-72-3000 開館時間 10:00~17:00  
休館日 火曜日/祝日の翌日

[特集]

## 泣く木

## 単独インタビュー

町民が知っているようで知らない泣く木について、本人に直接インタビューすることに成功した！

手を合わせてくれてありがとう。忘れられてしまうことが一番寂しいですからね。あ、私「泣く木」二世です。待って、怖がらないで。今日はね、先代である一世のお話をしたいと思うんです。あの木はね、樹齢

二世の元を訪れました

300年ともいわれていたように、とても大きなハルニレの木で…。えーっと、ちよつと年月を遡ってみましょうか。今から129年前、岩見沢と室蘭を結ぶ鉄道工事が行われたのです。それはそれは過酷な工事で、狩り出された囚人達は食べ物も満足に与えられず、休みなく労働を強いられました。逃亡を防ぐために足を鎖で繋がれてね。人間ですから、当然弱ります。それで工事中、恨みを残しながら30人以上が亡くなった。その遺体を栗山トンネルの近くにあった

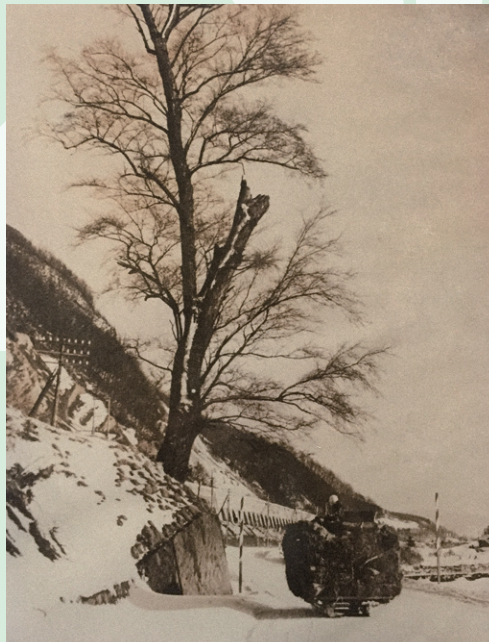


## 悲しみの連鎖と、その終末

それから約40年後のこと。道路拡張工事のため、カーブに生えていたこの木を伐ることになったのですが、作業員が刃を当てた時、異変が起こったのです。

「泣き声がする！」

キーン…キーン…と悲しげな声。「労働者達の霊が宿り、悲鳴をあげている」との噂が広がり、「泣く木」と呼ばれる



台風で折れた跡が残る、「泣く木」。これが撮影された約2年後に伐られてしまう。

夕張川沿い、国道234号線にそびえる「泣く木」二世。ハシゴを登って近くに行けるようになっている。すぐ横には一世の切り株跡と石碑。お地蔵様を祀った祠が。



ようになりまして。「伐ろうとしたら折れた鋸が首に当たって人が死んだ」「馬に木を引かせたらロープが切れて2頭死んだ」。これらは町民が私に教えてくれた「祟り」と思われる実話。

私は今年で35歳になりました。先代の側にそつといさせていたでいます。代わりにいつはおこがましいですが、町民の皆さんのこと、いつも見守っているんですよ。白蛇さんと一緒にね。

それを物語るように、泣く木には痛々しい傷跡がたくさんあったといえます。実際、この木を迂回して道路工事が進められたのですから、単なる噂話でなかったことは確かでしょう。

その後しばらくは御神木として大切にされてきましたが、昭和45年8月22日、一人の男によってバツサリと伐られてしまったのです。町民にとって、こんなショッキングな出来事はありません。新聞記事になるほどですから。男のその後？十数年後に生存が確認されたようですよ。どんな想いを背負っていたのか、背負っていなかったのか、想像すらできません。

## 泣く木ダイヤルが存在していた!?



「電話をかけると、泣く木の声が聞こえる」。オカルトブームに乗ってか、そんなテレフォンコールが存在していました。電話番号の末尾は4949(シクシク)。テレビで取り上げられた時は、全国から電話が殺到したのだとか。

※1997年にサービス終了

## 「泣く木」といえば、この方



〈インタビュー監修〉  
坂井菊二郎氏

幼心に「泣く木」はおっかない存在だったと坂井氏。噂話は信じない、泣き声は堅い木の性質によるものでは？と話しながらも、時折見る怖い夢の中で「何か」を感じるという。「泣く木」にまつわる実話を集め、著書『栗山・泣く木物語』や講演等で発信。「いろんな人がお参りしやすいように、周辺が整備されるとうれしいね。あの木が僕を守ってくれていると信じています。」

元気な栗山産が  
お待ちかね!

訪れたのは7  
月上旬。店内に  
入ると、生き生  
きとしたトマト  
やキャベツ、アス  
パラがずらりと

迎えてくれました。これらは町  
内の契約農家さんから今朝届  
いたばかりの野菜。多い時は50  
種以上も並ぶというから驚き  
です。よく見ると、商品ポッ  
プの一つひとつに生産者の方の  
名前が。「その名前を見て、ト  
マトは〇〇さん、キャベツは△  
△さんと、指名買いますお客  
様もいらつやるんですよ」と

教えてくれたのは、店長の井  
内由美子さん。長年このお店  
を守り続けています。

野菜ソムリエでもある井内



野菜はもちろん、生地の米粉や  
トマトソースのトマトも栗山町  
産。食感軽やかでクセになる!

今日も、今日とて、値ごろ市



農産物直売所 値ごろ市

湯地の丘自然農園が運営する直売所。和気あいあいとした雰囲気でもて迎えてくれた店長の井内由美子さん(左から4人目)と、笑顔が素敵なスタッフの皆さん。お店ではSNSを積極的に活用し、お店の新鮮な情報を発信している。

店長は、「やっぱり栗山の野菜  
が一番!味が濃くて、甘い。  
もぎたてを食べたら、他の野菜  
は食べられないですよ」と太鼓  
判。そんな説得力のある野菜  
に魅せられて、町内外から常

連さんがやってきました。

良い香りが漂ってきました。

奥のイートインコーナーでは、  
栗山の野菜を味わうメニュー  
が充実!「直売所なんだから、  
野菜を食べてもらえらるメ  
ニューを考えよう!」と昨年  
5月にリニューアル。栗山に移  
住してきたシェフからアドバイ  
スをもらいながら、季節の野菜  
を使ったピザ(これがまたおい  
しい!)やカレーなどを考案  
し、家族みんなで楽しめるライ  
ンナップに変わりました。

野菜を買って、イートインで  
満腹になったら、謎の格言コー  
ナーのチェックを忘れずに。店  
内のどこかにありますよ。

値ごろ市

〒069-1508 栗山町湯地95  
TEL 0123-72-2977  
営業時間 9:00~18:00(4月~10月) /  
10:00~17:30(11月~3月)  
定休日 木曜日



Facebook



Instagram

くりエイトの輪、広がってます



な魅力、面白い  
表情に出会うこ  
ともできます。  
栗山町がこの  
お店を運営している目的は、ものづ  
くりに関わる方を応援し、人と人  
のつながりを「くりエイト」するこ  
と。実際にその「くりエイト」が実  
り、過去に出展した方と現在出展  
している方たちによる団体「栗山  
でつながるくりエイトの輪」が  
生まれました。主な活動内容はお  
互いの個性を生かしたワーク  
ショップの開催。「くりやまクリエ  
イターズマーケット」内でワイワイ  
賑わいながら、くりエイトの輪を広  
げています。



くりやまクリエイターズマーケット  
(不定期営業)

〒069-1511 栗山町中央3-6(栗山駅から徒歩1分)  
営業時間 11:00~17:00  
http://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/  
docs/2017120100075/

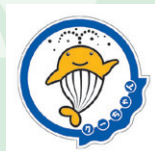
読者プレゼント

本誌についてのアンケートにご協力  
ください。お答えいただいた方の中  
から抽選で5名様に、栗山町在住の  
陶芸家、石川進一さん(SUSU窯)  
謹製の「くりエイトするまち 栗山町  
オリジナルくり型とつくり」をプレゼ  
ントします。

■ 回答期限  
2019年12月31日(火)まで



アンケートはこちら→  
<https://forms.gle/BWPECfnBtf2EBvvE9>



この事業は  
サマージャンボくじの  
収益金を活用して  
実施しています。

本誌について、くりやま若者シティプロモーションについてのお問い合わせ

栗山町若者定住推進課

TEL 0123-73-7521  
FAX 0123-72-3179



くりやまほっとらいふ

